

2022.06.29 第1回事業検討委員会 将来像検討WG説明

# 将来像検討WG 令和4年度計画

農研機構 農業機械研究部門

林 和信、野田 崇啓

# 設立背景、現状とミッション

## 【設立背景】

- 公募要領「機器間の理想的なデータ連携のあり方の提示」への対応。
- R3成果を拡張し、データ連携を推進するためには、産官学による取組が必要。

## 【現状】

- R3事業では、ガイドラインへの準拠、補助金要件化への対応等の観点から、API仕様や規約等を整備したことにより、データ連携推進の基盤づくりが前進。
- 一方で、担い手不足、気候変動、エネルギー・資源高騰等、広範で緊急に解決が必要な課題への対応に向け、継続的なデータ連携の推進が必要。

## 【ミッション】

- クリアすべき課題を明確にし、課題解決に機械データとデータ連携が果たす役割、利用効果を提示する（機械データは多様な農業データの一部、全体への貢献の視点から）。
- 機械データの役割、利用効果からAPI仕様の拡充や利用環境整備に必要な事項を特定する。

# 将来像WGの位置づけと活動

## 【位置付け】

- コンソーシアムメンバー全員が参加するWG横断的な検討の場とする。
  - 澁澤先生に座長を要請し、事務局が補佐。実働部隊としてコンサルタント企業を配備しWGにおける調査や検討を進める。

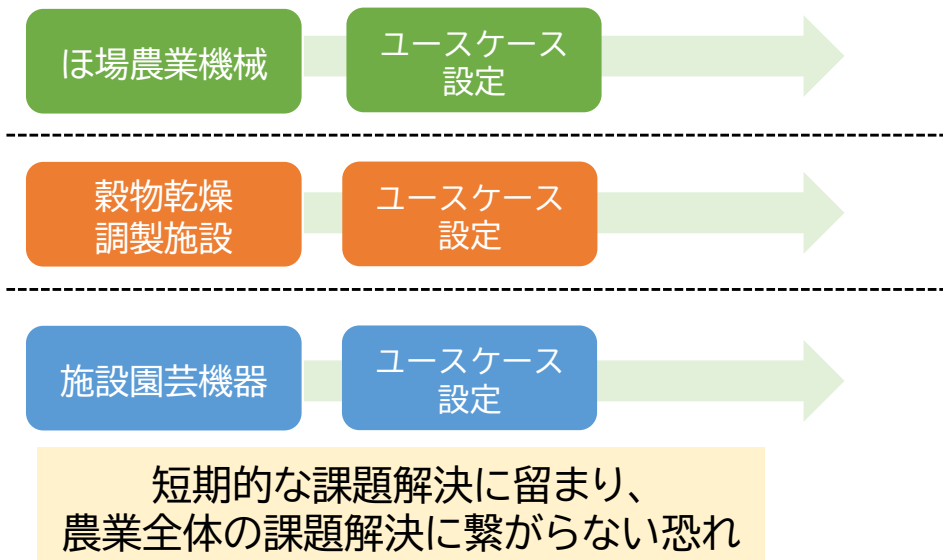
## 【検討の進め方】

- 4回のWG会合を予定。
  - 認識合わせと課題を共有し、WGの活動方向を定める。
  - 現場ニーズ収集等を行い、農業データの連携の「あるべき姿」となる目標像を設定。
  - 目標像からのバックキャストで、農機・システムのAPI開発を進める指針作りを行う。
  - コンソで策定した仕様や規約等の管理体制の「あるべき姿」も協議する。

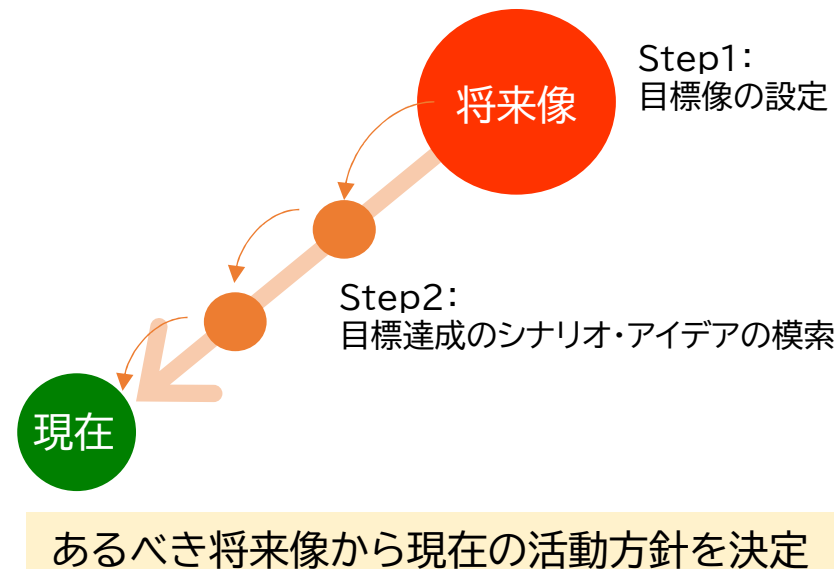
## 【出口】

- 理想的なデータ連携のあり方を示し、データ連携の促進に繋がるガイドライン改善への提言等を行う。

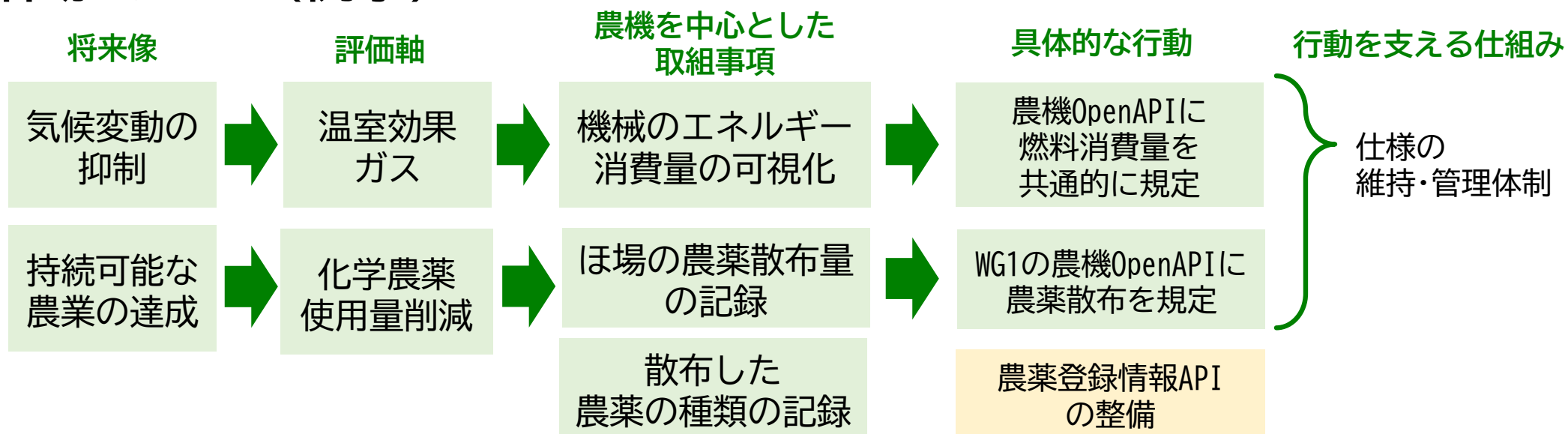
## 現在:



## 目標:



## 活動イメージ(例示):



## 【情勢変化の調査】

- ガイドラインの改定指針に定められた変化の調査

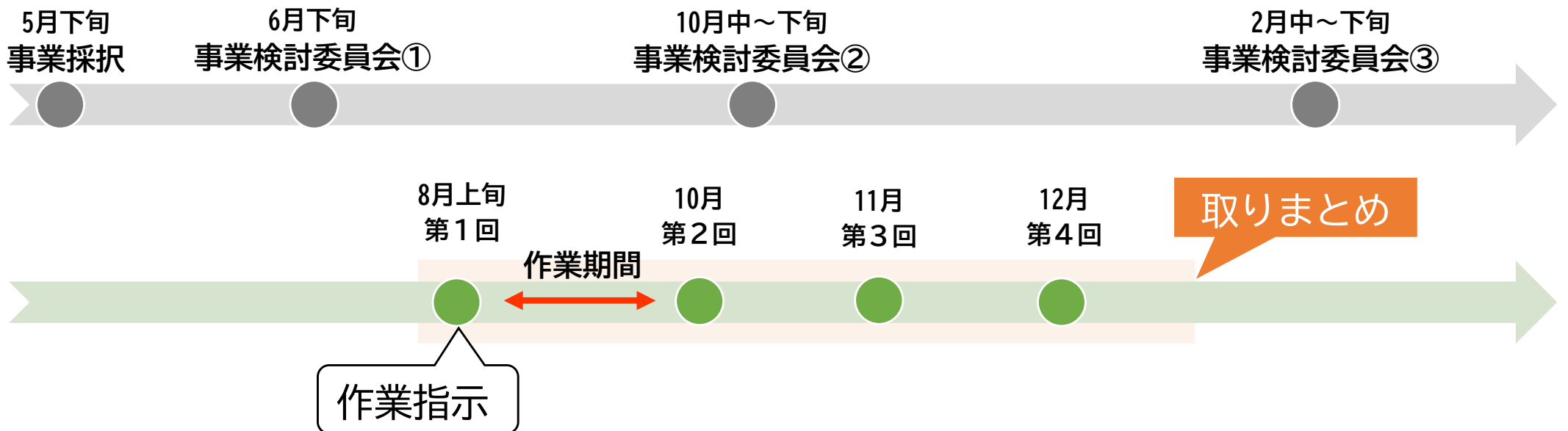
「本ガイドラインは、データ活用に関する事業者の取組状況、技術・サービスの進展、国際的なデータ連携に係る標準化の動き、農業データの利用状況など農業者のニーズ、データの取扱いに関する法令・ガイドラインその他情勢の変化に応じて、必要な見直しを行う。」

## 【具体的項目例】

- WGごとあるいはWG横断的に連携すべきデータ項目と対象機器  
(各データ項目、機器の連携に取り組むメリット、意義)
- ロードマップ(実装を強制するものではない)

## 【その他】

- 各種参照(コンソ成果物等)の追加



- 全4回の会合を予定
- 第1回会合では、認識合わせと各機関への作業指示（例：アンケート）
- 第2～4回会合は、1ヶ月間隔で短期集中で協議を進める
- ガイドラインへの提言を見据えて、2023年1月には案をまとめる